

肢体不自由教育 中学部第2学年 準ずる教育課程 自立活動学習指導案

日 時	平成**年*月*日 (*) 10:55~11:45	場所	中学部
指 導 者	** **		
活動名	ICT 機器を活用しよう		
活動設定の理由	<p>本学級は、準ずる教育課程の男子生徒1名である。本生徒は、右腕の肘をクッションに乗せた状態で、腕を前後左右に45度程度動かすことができる。見え方としては、視力には大きな問題がない。首を動かすことが難しいが、目で追うことができる範囲のものを視認することができる。授業の板書については、iPhone のメモとフリック入力機能を使い、手の平にヘアゴムで括りつけたタッチペンでメモをとることができる。また、書字に関しても、タッチペン同様に手に括りつけた鉛筆やペンでノートやホワイトボードに書くことができる。しかし、長時間腕を動かすことは本生徒にとって体力的な負担になっている。また、操作自体に時間がかかり、多くの情報を処理することが難しい場面もある。</p> <p>本単元では、特別支援学校学習指導要領自立活動編第6章の「5 身体の動き」に関する、体の動きの困難さを補填する内容を取り扱っている。そこで特別支援学校学習指導要領自立活動編第7章の3の「ア主体的に取り組む指導内容」「ウ遅れている側面を補う指導内容」についての指導を行うにあたって、ICT 機器を活用する。今回、主に iPhone を活用し、文字入力のやり方についての学習を行う。iPhone の機能としては、タッチペンを使用するフリック入力、音声での文字入力、データ管理のためのアプリ活用などがある。操作性に関しては、微細な動きにも画面が反応し、アシスティブタッチなどの機能を活用することで、画面全体に触れることが難しくても画面の上下左右へのスクロール、拡大や縮小などを行うことができる。また、音声機能を活用した文字入力ができるため、長時間の文字入力や文字数が多い時などに活用することで体力面での負担軽減が考えられる。アプリ機能に関しては、データの一括管理が可能で、紙媒体での学習の困難さを補填できる。</p> <p>指導においては、タッチペンでのタッチ入力とフリック入力の操作性の確認を行う。実際に表にまとめて、本人と確認することで操作にしやすい部分としにくい部分の分析を行う。また、音声入力に関しては、50音の音声入力確認を行い、入力しやすい音と入力しにくい音を知る活動を行う。また、ひらがな、カタカナ、漢字など、実際に教科書に載っている単語を使って音声入力を行い、それぞれの入力のしやすさや可否についても確認する。今回は、社会科の内容を題材として用いて、単語や文章など様々な内容に挑戦する。そうしてより正確に文字を入力するために、どのようにタッチペンでの入力と音声入力を使い分けるかを考えられるようにする。</p>		
活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチペンでの入力と音声入力での文字入力ができる。 ・タッチペンでの入力と音声入力を使い分ける基準を考えることができる。 		
指導計画 (9時間扱い)	<p>第1次 タッチペンでの入力での文字入力をしよう・・・(2時間) 音声機能で文字を入力しよう・・・(3時間)</p> <p>第2次 タッチペンでの入力と音声入力の向き不向きを知ろう・・・(2時間)・・・本時(第1時) タッチペンでの入力と音声入力を使い分けよう・・・(2時間)</p>		

【本時の指導】

1 全体目標

- ・iPhone のメモ機能で、タッチペンでの入力と音声入力の特徴を知り、その知識をもとに文字入力を行うことができる。 <5-(2)(5)>

2 生徒の実態及び個別目標等


※個別目標には、関連する自立活動の区分内容を番号で明記する。(例：<1-(1)>)

主な担当 生徒 学年 (性別)	生徒の実態	個別目標	主な指導場面 評価方法
・ 2年 (男)	・脊髄性筋萎縮症である。首の据わりがなく、動かすことができるのは、右腕の肘から先と眼球である。腕は、クッションに肘を立てた状態で前後左右に 45 度程度動かすことができる。	・1 の目標と同じ <5-(2)> <5-(5)>	5(1) (2) ・観察

3 展開

※自立活動の区分・内容を関連付け、番号をつける。(例：<1-(1)>)

※形態の表記は 全体：全、グループ：グ、個別：個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て (各Tの役割等) ※評価は口で囲む
個 (5)	1 本時の学習内容を確認する。 (1) あいさつをする。 (2) 本時の学習目標を知る。 iPhone のメモ機能で、タッチペンでの入力と音声入力の特徴を知り、その知識をもとに文字入力を行うことができる。	・本時の目標を提示し、学習においてどのような点を意識して取り組めばよいか考えることができるようにする。
個 (5)	2 タッチペンでの文字入力をする。 (1) iPhone の文字入力画面をタッチして、押しやすい場所と押しにくい場所を知る。 	・音声メモを活用するためにピンマイクを胸元に設置する。 <5-(2)(5)> ・両膝の上に作業台 (本人私物) を置き、iPhone を配置する。iPhone の配置場所については、本人から使いやすい位置を聞き取りながら微調整をする。 <5-(2)(5)> ・右手にタッチペンを括りつける。長さや角度については本人に確認しながら調整する。 <5-(2)(5)> ・T は iPhone のメモ画面を開く。文字入力画面であ～記号までの 12 か所を順番にタッチするように伝える。 ・押しやすかった場所と押しにくかった場所を聞き取り、iPhone の文字入力画面を同じように作成した表にまとめる。押しやすかったところは○、押しにくかったところは△をつけて提示する。 ・(1)で押しやすいことが分かった文字の位置で、上下左右にフリック入力を行うようにする。 <5-(2)> ・上下左右の入力のしやすさを聞き取り、入力しやすかった方向を○、入力しにくかった方向を△として表にまとめる。 ・表をもとに、本人の操作性について考える時間を設ける。

<p>個 (5)</p>	<p>3 音声入力での文字入力を行う。 (1) 50 音の音声入力を行い、正確に入力できる音と入力が難しい音を知る。 (2) 社会の教科書に「ひらがな」「カタカナ」「漢字」で記載されているいくつかの単語を音声で入力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あ段からお段の音を、音声入力で文字を入力する時間を設ける。入力は5回までとして、正確に入力できた文字とそうでない文字を表にまとめ、その傾向を本人に提示する。 ・社会の授業で既に学習した内容から、いくつかの単語を選び、音声入力をする。カタカナに関しては、英単語としても使われるものを選ぶようにし、入力の正確性に差が出るようにする。入力は5回までとして、結果を板書に記入する。
<p>個 (10)</p>	<p>4 タッチペンでの入力と音声入力を使い分ける基準を考える。 (1) 2と3の活動から正確に入力できる音や単語の種類を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2と3の活動の結果をまとめた表をもとに、正確に入力ができる音や単語の種類について考える時間を設ける。そこから文字入力を行う際のタッチペンでの入力と文字入力の使い分けの基準を一つ決めるようにする。決まった基準はミニホワイトボードに記入し、提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・検証の結果をもとに文字入力の使い分けについての基準を一つ考えることができたか。(発表) </div>
<p>個 (15)</p>	<p>5 文字入力の練習をする。 (1) 社会の既習事項の内容をもとにいくつかの単語や文章の入力を行う。 (2) 授業のまとめなど10文字以上になる文章の入力を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の既習事項の中から無作為に単語を選び、文字入力を行う活動をする。この時、4で考えた基準を守りながら活動できるようにする。 ・既習事項でまとめた文章などを活用する。文章入力に関しては、基準を守りつつ、その都度自分で考えながら文字入力の使い分けを行うようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文字入力を使い分けながら10文字以上の文章を6回以内のミスで入力することができたか。(観察) </div>
<p>個 (5)</p>	<p>6 ネットワーク上に保存する方法を知る。 (1) evernote への保存方法を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・iPhone のアプリを開き、文字入力をしたメモのネットワーク上への保存方法を生徒と一緒に確認する。また次回以降、このアプリを使っての文字入力や一度ネットワーク上に保存したデータの閲覧方法などを学習することを伝える。
<p>個 (5)</p>	<p>7 学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で分かった、入力しやすい音や単語、タッチペンと音声のどちらが入力しやすいかなどを本人と確認しながら、表にまとめ記録に残すようにする。

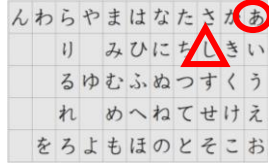
【板書計画】

iPhone のメモ機能で、タッチペンでのフリック入力と音声入力の特性を知り、その知識をもとに文字入力を行うことができる。

タッチペンでの文字入力をしよう

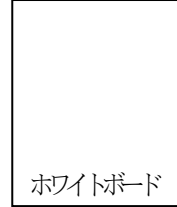


音声入力での文字入力をしよう



単語
レザノフ → えざのふ、れ座ノ不
徳川吉宗 → 徳川吉宗
町おこし → 町おこし

使分け基準



文字入力の練習をしよう

単語

- _____
- _____

文章

- _____
- _____
- _____